

## 令和5年度 第2回 岡山県事業評価監視委員会 議事要旨

### ○開催概要

- 1 日 時 令和5年9月29日(月) 13:30~16:00
- 2 場 所 ピュアリティまきび「千鳥」
- 3 出席者 岡山県事業評価監視委員会 委員 6名  
土木部 技術総括監  
農林水産部 参与(農林技術)  
事務局(技術管理課、農政企画課)  
道路建設課、道路整備課、河川課、防災砂防課、港湾課、  
都市計画課、耕地課、水産課

### ○議事概要

- 1 開 会
- 2 挨拶(土木部 技術総括監)
- 3 再 評 価

(事務局)	令和5年度再評価審議対象事業 (第1回事業評価監視委員会で土木部関係5件を抽出)  「事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業」 ①県道 久米建部線 道路改良事業 ③都市計画道路 連島呼松線 岡山県南広域都市計画事業  「再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業」 ⑥一級河川 小田川 河川改修事業 ⑨一級河川 滝川(下流) 河川改修事業  「知事が特に再評価の必要があると認める事業」 ⑯県道 倉敷妹尾線 道路改良事業
(道路建設課)	①県道 久米建部線 道路改良事業 本線は、津山市宮尾から、久米郡美咲町を經由し、岡山市北区建部町鶴田に至る主要な幹線道路で、沿道地域住民の生活交通を支えるとともに、岡山市・久米南町・美咲町・鏡野町・

	<p>津山市西部間の移動経路として不可欠な路線である。</p> <p>本事業は、幅員狭小、通行車両の高さ制限、国道との交差点形状などの現道の課題を解消するために、バイパス整備及び現道拡幅を行うものである。</p> <p>今回の再評価では、交差点計画の変更により、新たに支障物件が発生したことで、事業費が増額となっている。</p> <p>事業期間についても、用地交渉の難航及び関係機関協議等により、令和6年度まで延長している。</p> <p>バイパス区間を令和5年2月に供用開始したことで、課題であったJR姫新線高架下の通行や国道181号との交差点における視距不良が改善し、通行車両の安全性が向上している。</p> <p>費用対効果B/Cは1.2であり、交通障害の解消など、事業の必要性、重要性は変わらないことから、現計画を継続する方針である。</p>
( 委 員 )	<p>設計速度50km/hとなっているが、道路を拡幅するのであれば、設計速度60km/hとすれば費用対効果も上がるのではないか。</p>
(道路建設課)	<p>設計速度が上がれば道路線形等に影響し、費用が増加することになる。</p> <p>県道では、設計速度を40、50、60km/hの中から選定し計画することが多いが、今回の事業では、費用面等を踏まえて設計速度50km/hとしている。</p>
( 委 員 )	<p>交通事故減少を目指すということだが、歩道は片側の計画となっている。自転車などの通行状況はどうか。</p>
(道路建設課)	<p>歩道設置については、歩行者、自転車の利用状況により必要性を検討しており、本事業においては、片側歩道の計画としている。</p>
( 委 員 )	<p>現在施工中の拡幅区間についても歩道は片側となるのか。</p>
(道路建設課)	<p>バイパス区間、現道拡幅区間ともに片側に歩道を設置する</p>

	計画としている。
( 委 員 )	自転車などは姫新線の南側の橋を通ることが多いのか。
(道路建設課)	自転車や歩行者は、国道181号の歩道橋を利用している。また、バイパスを供用することにより、姫新線下流側の市道橋を通行していた車両が減少するため、より安全に自転車、歩行者が通行できる状況になる。
( 委 員 )	今回のコスト増は、用地補償費の増加によるものということだが、高額な補償物件があったのか。
(道路建設課)	交差点計画の見直しにより支障となった物件が大きなホテルであり、移転補償費を算定した結果、約3億円の補償費が必要となった。
( 委 員 )	支障となる部分だけではなく、全体を補償したということか。
(道路建設課)	補償方法として、切取り補償などがあるが、本支障物件は営業の継続可否を考慮して補償費を算定している。
( 委 員 )	県の対応方針は妥当であるとしてよろしいか。
	(異議なし)
( 委 員 )	県の対応方針は妥当であるとする。
(都市計画課)	<p>③都市計画道路 連島呼松線 岡山県南広域都市計画事業</p> <p>本路線は、都市計画道路三田五軒屋海岸通線から国道430号に至る全長約6kmの都市計画道路で、倉敷地域と水島地域とを連絡する重要な幹線道路であり、第3次緊急輸送道路にも指定されている。</p> <p>本事業区間の前後区間は4車線化が完了しているのに対し、本事業区間は2車線となっていることから、特に朝夕の通勤</p>

	<p>時間帯に渋滞が発生し、円滑な交通に支障をきたしているため、本事業により道路拡幅整備を行い、4車線化を図る。</p> <p>事業費については、詳細設計に併せて土質調査を実施した結果、地盤改良工法等が変更となったため、約5億円の増額とする。</p> <p>事業期間については、用地交渉が難航し、工事の進捗が図られなかったことから、7年間延長する。</p> <p>B/Cについては、事前評価時が1.51、今回の再評価では1.35となっている。</p> <p>現時点で用地取得率は80%で、残る用地買収についても鋭意交渉を行う予定であり、また、地元からの早期整備要望は依然として強く、事業の必要性、重要性に変わりはないことから、現計画を継続する方針である。</p>
( 委 員 )	<p>土質調査の結果、工法が変わったことにより事業費が増えたということだが、工法変更の必要性を具体的に教えてほしい。</p>
(都市計画課)	<p>ボーリング調査により土質や地下水位を設定し、地盤改良の工法を決めるが、事前評価の段階では、費用面からボーリング調査を実施できないため、既存の資料を基に地盤の状況を想定し、改良工法を設定している。</p> <p>地盤の想定と調査結果の差異により、地盤改良の工法が変わり、事業費を増額することとなった。</p>
( 委 員 )	<p>第3次緊急輸送道路にも指定されているとのことだが、何か用地買収に関係するような強制力が生じるのか。</p>
(都市計画課)	<p>緊急輸送道路であることにより、用地買収を進める上での法的な強制力が生じることはない。</p>
( 委 員 )	<p>事業期間が7年延びた理由は。</p>
(都市計画課)	<p>現時点で用地取得率は80%であり、想定以上に用地買収に時間がかかったことから工期も延びている。</p>

<p>( 委 員 )</p>	<p>交差点部分は右折車線を設置するのか。 また、ボックスカルバートの設置目的は何か。</p>
<p>(都市計画課)</p>	<p>交差点部分については、4車線に右折レーンが付加され5車線となる。 ボックスカルバートについては、用水路の機能回復を行うものであり、市街地での用地取得の観点から、その上を歩道の一部として利用する。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>雨水も流れ込むのか。</p>
<p>(都市計画課)</p>	<p>用水路として整備するが、雨水も流入する構造になる予定である。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>ボーリング調査の結果により事業費が増額したとのことだが、前後の整備状況から、もう少し精度の高い推定ができなかったのか。 現時点で用地取得率が80%であり、残り20%ということだが、事業期間を7年間延伸するといことは、ある程度目途がついているのか。 緊急輸送道路であるが、災害に備え、無電柱化を進めるのか。</p>
<p>(都市計画課)</p>	<p>土質については、表面から3m程度の粘土層があることは分かっていた。その下の砂質層について、対策は不要と考えていたが、ボーリング調査の結果、対策が必要ということになった。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>前後の区間は、当初想定した工法で整備したのか。</p>
<p>(都市計画課)</p>	<p>前後区間のボックスカルバートの有無や地盤改良の工法については把握できていない。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>評価対象事業については、掘削した結果、事業費が増額になるという事例が少なからずあるが、全体的に見ればある程度の精度を持って土質推定できているのは理解している。</p>

	<p>今回の場合のように同じ地域で前後が整備されているのであれば、もう少し精度高く推定できるのではないか。</p>
( 土 木 部 )	<p>山と平地が混在している地形については、事前に推定することが困難となる。前後の地形状況、ボーリングデータを利用して推定するが、実際には地層の状況が変わってくるため、推定と結果に乖離が生じやすい。事業を行う上で問題点の一つと考えており、より慎重に検討してまいりたい。</p>
(都市計画課)	<p>用地の状況については、抵当の手続きなどに時間を要している箇所は、概ね令和6年度末には契約できると考えているが、残る案件については、令和7年度末を一つの目途と考えており、工程をしっかりと詰めていきたい。 無電柱化の計画は無い。</p>
( 委 員 )	<p>県の対応方針は妥当であるとしてよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
( 委 員 )	<p>県の対応方針は妥当であるとする。</p>
( 河 川 課 )	<p>⑥一級河川 小田川 河川改修事業</p> <p>小田川は、岡山県の南西部に位置し、井原市、矢掛町のほぼ中央を東に流れ、倉敷市において高梁川に合流する一級河川である。</p> <p>昭和47年災害を受け、倉敷市から井原市までの延長26.3kmについて、昭和51年から、整備を進めているが、平成30年7月豪雨で、甚大な被害が生じた。</p> <p>災害を受け、県では堤防決壊箇所の災害復旧や河道掘削を実施するとともに、河川整備計画を変更し、林田川・堀越川の内水対策を追加したこと等から、事業費を24億円増額し、完了年度を令和35年度まで延期したいと考えている。</p> <p>今後、堰の可動化、堤防嵩上げや河道掘削を実施していくとともに、地元の方へご説明したうえで、内水対策を進めていきたいと考えている。</p>

	<p>事業再評価にあたり、国のマニュアルに基づき、B/Cを算定したが、事業効果があることが確認できたことや、事業の必要性、重要性は変わらないことから、現計画を継続する方針である。</p>
( 委 員 )	<p>資料の単純費用に間違いが無いか。</p>
( 河 川 課 )	<p>単純費用に一部転記ミスがあり大変失礼した。総費用は間違いない数字である。</p>
( 委 員 )	<p>小田川については、地元の関心も非常に高く、高梁川合流部周辺で改修効果も高いと思うが、地元への説明手順を教えてほしい。</p>
( 河 川 課 )	<p>高梁川との付け替えについては国が実施しており、県では上流の小田川について、地元の方へ説明会を開催している。</p>
( 委 員 )	<p>説明会では、前回の大雨における雨量などの数字を用い、被害が生じないことを説明しているか。</p>
( 河 川 課 )	<p>平成30年7月と同等の降雨であっても、溢れることなく流下できるという説明をしている。 また、平成30年7月豪雨以降、小田川沿川の4市町、倉敷市、矢掛町、笠岡市、井原市の首長に集まっていたき、年2回、国、県から事業計画を説明している。</p>
( 委 員 )	<p>可動堰とはどういうものか。 また、遊水池はどのように囲われ、事業費はどの程度になるのか。</p>
( 河 川 課 )	<p>堰については、一般的に農業用に使われることが多いが、川から農地に取水するにあたり、水位を上げるために川をせき止める必要がある。 可動堰とは、取水する時には堰が膨らみ、洪水時には水が溢れないように倒れる仕組みとなったものをいう。 遊水池については、小田駅北側に約700mの堤防を築き、</p>

	<p>一時的に水を貯めるように考えている。費用は7億円程度を見込んでおり、ポンプと合わせて15億円程度と考えている。</p>
( 委 員 )	<p>遊水池の予定箇所には説明済みか。</p>
( 河 川 課 )	<p>地元の方には計画を説明している。</p>
( 委 員 )	<p>遊水池は普段はどのような使い方になるか。</p>
( 河 川 課 )	<p>普段は田んぼとして使われることを想定している。 詳細は地元の方との協議により決定したい。</p>
( 委 員 )	<p>平成30年豪雨をきっかけにスタートする事業が令和35年までかかるのはいかなものか。遊水池以外で大きな用地買収も無いように思うが、どういう理由か。 平成30年豪雨と同等の降雨があった場合、いつの段階で耐えられるようになるのか。令和35年まで待たなければならないのか。地元への説明を含め教えてほしい。</p>
( 河 川 課 )	<p>事業期間については、事業延長が26.3kmに及び、それぞれの地元の方への説明が必要となることから令和35年までを見込んでいる。特に、河川事業は出水期に工事ができないため、10月末から6月半ばまでという限られた期間で進めていく必要がある。 堤防の高さについては、平成30年7月豪雨と同等の降雨に耐えられる高さまでは確保しており、余裕高を見込んでさらに高くするには時間がかかるという説明をしているところである。</p>
( 委 員 )	<p>県の対応方針は妥当であるとしてよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
( 委 員 )	<p>県の対応方針は妥当であるとする。</p>



<p>( 河 川 課 )</p>	<p>⑨一級河川 滝川（下流） 河川改修事業</p> <p>滝川（下流）は、中国山地の滝山に源を発し、勝央町を流下した後、美作市で梶並川に合流する、吉井川水系の一級河川である。</p> <p>昭和 51 年洪水を契機に、勝央町東吉田付近から J R 姫新線鉄橋付近までの約 1.8km について、昭和 52 年から、整備を進めている。</p> <p>このたび、可動堰の施工にあたり、河床の洗堀対策が追加となったことや、河道に堆積した土砂の撤去などから、事業費を 7 億円増額し、完了年度を令和 13 年度まで延期したいと考えている。</p> <p>なお、滝川では、計画延長 1,790m のうち、1,520m が概成しており、平成 30 年 7 月豪雨での出水状況からも、事業効果が発現していることが確認できた。</p> <p>事業再評価にあたり、国のマニュアルに基づき、B / C を算定したが、事業効果があることが確認できたことや、事業の必要性、重要性は変わらないことから、現計画を継続する方針である。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>I C T の活用で費用が増加する理由は何か。</p> <p>河川内樹木の伐採は、どの河川においても年に 1 回程度は実施しているのか。</p>
<p>( 河 川 課 )</p>	<p>I C T 活用により、現場の効率は上がるが、建設会社にとっては費用が増加するため、国の基準に基づき増額している。</p> <p>河川内樹木の伐採については、河川整備計画に基づき、河道掘削と合わせて実施している。事業実施していない河川についても、維持浚渫のための予算を確保し、対策を進めている。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>対策の頻度についてはどうか。</p>
<p>( 河 川 課 )</p>	<p>何年に 1 回という規定は無いが、河川断面の確保に必要な掘削等を実施している。</p>
<p>( 委 員 )</p>	<p>樹木伐採については、平成 3 0 年豪雨で話題になった後、</p>

	<p>小田川なども一斉に進んだようだが、その後は定期的な観測をし、再度伐採の必要を判断する基準があるか。撤去する頻度の基準があるか。</p>
(河川課)	<p>河川巡視などにより、必要性が認められれば順次対策をしている。</p>
(委員)	<p>年に一度全体を見るなどのモニタリングは実施していないのか。</p>
(土木部)	<p>平成30年7月豪雨を受けて社会的にも注目されており、河川管理者としても相当の予算を充当し、大規模な掘削や樹木伐採をしている。</p> <p>今後、土砂の堆積しやすい場所、樹木の繁茂しやすい場所をモニタリングしながら計画を作成したいと考えている。</p>
(委員)	<p>そういった計画の情報は、沿川住民の知りたい情報だと思うので、住民の安心のためにもできるだけ早く周知してもらいたい。</p>
(委員)	<p>県の対応方針は妥当であるとしてよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p>
(委員)	<p>県の対応方針は妥当であるとする。</p>
(道路建設課)	<p>⑩県道 倉敷妹尾線 道路改良事業</p> <p>本線は、起点の倉敷市羽島から、都窪郡早島町を經由して終点の岡山市南区古新田の国道2号に至る幹線道路であり、倉敷市中心市街地と国道2号を結ぶアクセス道路として重要な役割を担っている。</p> <p>事業区間は未改良で、全体的に幅員狭小であり、円滑な交通の支障となっている。また、歩道が整備されていないことから、朝夕は交通が錯綜し、交通安全上も大変危険な状態である。</p>

	<p>本事業は、現道の抱える課題をバイパス整備により解消するものとして令和3年度に事業着手したものであるが、本事業の着手後、国が行う国道2号の渋滞対策が事業化され、本路線と国道2号の交差点である金田口交差点が閉鎖される計画が明らかとなったことから、県道のネットワーク機能を確保する必要が生じた。</p> <p>今回の再評価では、事業着手後の状況変化を踏まえ、都市計画道路旭町西田線のルートを活用して事業区間を西田交差点まで延伸し、県道のネットワーク機能を確保することとしている。</p> <p>事業延長は、事業区間を西田交差点まで延長することで、600mの増、計画交通量は、西田交差点へ接続した計画で再推計を行った結果、9,500台から13,000台となり、3,500台の増、事業期間は、延伸区間の工事費及び交差点付近の支障物の移転等を考慮して、6年の延長としている。</p> <p>費用対効果B/Cは2.87となっている。</p> <p>都市計画道路のルートを活用したバイパス整備により、現道の課題を解消するとともに、国道2号の渋滞対策事業による金田口交差点の封鎖に対する県道のネットワーク機能を確保するものであり、事業の必要性、重要性は変わらないことから、現在整備中の区間を国道2号西田交差点まで延伸し、事業を継続する方針である。</p>
( 委 員 )	<p>金田口交差点はどのような状態になるのか。 また、付け替え道路は一時的なものか。</p>
(道路建設課)	<p>金田口交差点は南北に分離され、国道に合流し左折はできるが、右折はできない状態となる。</p> <p>付け替え道路については、バイパス新設により倉敷妹尾線が分断されることから、国道2号西田交差点から北側へある程度距離を取った位置にバイパスへの接続交差点を設ける計画としている。</p>
( 委 員 )	<p>その場合、現道はどうなるのか。</p>
(道路建設課)	<p>基本的にバイパス整備をした場合、元の県道は市、町に管</p>

	理をお願いしている。また、現道沿いに消防署や民家があるため、通行は可能とする予定である。
( 委 員 )	付け替え道路の費用は見込んでいるのか。
(道路建設課)	見込んでいる。
( 委 員 )	歩行者、自転車についてはどうなるのか。
(道路建設課)	階段やスロープで現道からバイパスに上がることも考えられるが、詳細な計画は定まっておらず、今後の協議により決定する。
( 委 員 )	現在の倉敷妹尾線とバイパスは国道2号との交差点部では、接続されないということか。
(道路建設課)	本業務により、まずは国道2号から北側の県道ネットワークを確保するため、事業区間を西田交差点まで延伸するものである。南側については、整備方針等を検討している状況である。
( 委 員 )	県の対応方針は妥当であるとしてよろしいか。
	(異議なし)
( 委 員 )	県の対応方針は妥当であるとする。

## 4 事後評価

(事務局)	<p>事後評価対象事業について、事務局より概要説明し、その中から、次回事業評価監視委員会において審議する事業を抽出</p> <p>令和5年度 事後評価対象事業の概要説明 (土木部関係5件)</p> <p>道路改良事業</p> <p>①県道 服部射越線 瀬戸内市邑久町福中地内 工 種：現道拡幅 概 要：延長 0.22km 幅員 5.5 (7.0) m 事業期間：5年延長(平成24～令和2年度) 事業費：0.2億円減額(全体事業費1.8億円)</p> <p>②県道 蒜山高原線 真庭市蒜山下長田地内 工 種：バイパス、現道拡幅 概 要：延長 0.4km 幅員 5.5 (7.5) m 事業期間：2年短縮(平成31～令和2年度) 事業費：0.1億円減額(全体事業費1.0億円)</p> <p>砂防事業</p> <p>③砂防指定地 吉谷川 久米郡美咲町南地内 工 種：砂防堰堤 概 要：1基 事業期間：2年延長(平成24～令和2年度) 事業費：1.0億円減額(全体事業費4.5億円)</p> <p>高潮対策事業</p> <p>④児島港海岸 唐琴地区 倉敷市児島唐琴4丁目地内 工 種：離岸堤 概 要：2基 事業期間：3年延長(平成24～令和2年度)</p>
-------	--

事業費：2.3億円増額（全体事業費 10.7億円）

⑤笠岡港海岸 港町地区

笠岡市港町地内

工 種：護岸嵩上、胸壁

概 要：護岸嵩上工 L=730m、胸壁工 L=420m

事業期間：変更なし（平成 30～令和元年度）

事業費：0.1億円増額（全体事業費 3.3億円）

（農林水産部関係 10件）

かんがい排水事業

⑥笠岡湾干拓第二地区

笠岡市カブト中央町他地内～倉敷市船穂町船穂地内

工 種：揚水機場改修 他

概 要：揚水機場改修 1箇所

サイホンゲート改修 1箇所

ボックスカルバート 12箇所

事業期間：変更なし（平成 27～平成 30年度）

事業費：変更なし（全体事業費 2.1億円）

防災事業（ため池）

⑦奥山池地区

笠岡市山口地内

工 種：ため池改修

概 要：1箇所

事業期間：1年延長（平成 26～平成 30年度）

事業費：1.8億円増額（全体事業費 4.3億円）

⑧白滝池地区

美作市白水地内

工 種：ため池改修

概 要：1箇所

事業期間：1年延長（平成 26～平成 30年度）

事業費：変更なし（全体事業費 1.6億円）

	<p>⑨上見池地区 和気郡和気町日笠下地内 工 種：ため池改修 概 要：1箇所 事業期間：1年延長（平成26～平成30年度） 事業費：0.5億円減額（全体事業費1.8億円）</p> <p>⑩平山新池地区 岡山市北区平山地内 工 種：ため池改修 概 要：1箇所 事業期間：変更なし（平成27～平成30年度） 事業費：0.4億円増額（全体事業費1.6億円）</p> <p>⑪高山池地区 赤磐市斗有地内 工 種：ため池改修 概 要：1箇所 事業期間：変更なし（平成27～平成30年度） 事業費：0.1億円増額（全体事業費1.8億円）</p> <p>防災事業（河川応急） ⑫天満地区 津山市戸脇地内 工 種：頭首工 概 要：1式 事業期間：1年延長（平成27～平成30年度） 事業費：0.2億円増額（全体事業費2.2億円）</p> <p>防災事業（湛水防除） ⑬秋芳川地区 岡山市東区向州地内 工 種：排水機 概 要：1台 事業期間：変更なし（平成27～平成30年度）</p>
--	--

<p>(事務局)</p>	<p>事業費：1.1億円減額（全体事業費 3.7億円）</p> <p>水産生産基盤整備事業</p> <p>⑭朝日漁港</p> <p>瀬戸内市牛窓町鹿忍子父雁</p> <p>工種：防波堤（改良）、物揚場、浮棧橋</p> <p>概要：防波堤（改良）L=21m 物揚場 L=40m 浮棧橋 1基</p> <p>事業期間：3年短縮（平成24～平成30年度）</p> <p>事業費：16.2億円減額（全体事業費 3.3億円）</p> <p>海岸環境整備事業</p> <p>⑮白石島漁港海岸</p> <p>笠岡市白石島</p> <p>工種：突堤工、護岸工、潜堤工、養浜工</p> <p>概要：突堤工 L=84m 護岸工 L=421m 潜堤工 L=490m 養浜工 V=224千m<sup>3</sup></p> <p>事業期間：2年延長（平成6～平成30年度）</p> <p>事業費：1.8億円増額（全体事業費 20.8億円）</p>
	<p>事務局からの概要説明を踏まえ、令和5年度事後評価対象事業15件から、事業種別ごとに事業費、事業期間など変動の大きな事業を対象に、事後評価審議案件5件を抽出した。</p> <p>○土木部関係（2件）</p> <p>砂防事業</p> <p>③砂防指定地 吉谷川</p> <p>海岸事業</p> <p>④児島港海岸 唐琴地区</p> <p>○農林水産部関係（3件）</p> <p>防災事業（ため池）</p>



	<p>⑦奥山池地区</p> <p>⑨上見池地区</p> <p>水産生産基盤整備事業</p> <p>⑭朝日漁港</p>
--	--

## 5 その他

(道路建設課)	<p>第1回事業評価監視委員会における進捗状況説明の補足</p> <p>第1回監視委員会において、県道水島港唐船線の進捗状況を説明した際、委員より地元要望の取扱い等について質問があったため、改めて回答する。</p> <p>本線と市道との交差点や市道取付道路に関し、令和2年度の再評価時点では、平面交差としており、現道市道を拡幅する計画であったが、その後の文化財調査の結果、市道周辺で重要な遺構が発見され、地形改変が不可能なエリアであることが判明した。これにより、計画を修正して地元説明を行ったところ、</p> <p>交差点形状や市道の機能復旧について要望があったものである。</p> <p>要望については、書面での提出はなかったものの、自治会長等の地元代表者に確認し、地元の総意であると判断した。地元要望については、事業への影響、公共性や必要性などを勘案し、事業計画に反映している。</p>
---------	---

## 6 閉会